

キャンパス通信 ippeki



- 01 新学長就任挨拶
- 02 特集／  
本学における新型コロナウイルス  
感染症対策について
- 05 学部／  
新しい学生生活が求められる中で
- 07 大学院
- 08 講義・教員紹介
- 09 オープンキャンパス
- 10 ひとりを見る目、その目を世界へ

学生有志団体ビスケットと共同した教員有志による  
ハロウィンパーティー(11月9日)

第19号  
2020.4 ▶ 2020.9



※写真撮影のため、マスクをはずしています。

ひとりを見る目、その目を世界へ



日本赤十字九州国際看護大学

Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing & Graduate School



# 新学長就任挨拶

2020年4月より、日本赤十字九州国際看護大学の一員となりました学長の小松浩子です。  
自然と文化に恵まれた宗像で新しい学びを進めています。どうぞよろしくお願い致します。

私の郷里は、関門海峡をはさんだ山口県の徳山市です。九州は私にとって幼き頃の家族旅行や高校時代の合宿地としてなじみ深い土地です。高校卒業後山口を離れてからは、徳島(徳島大学)で大学生活を送り、卒業後に大阪市にある淀川キリスト教病院で看護婦として勤務し、その後、千葉大学で大学院修士課程、聖路加看護大学(現聖路加国際大学)で博士課程を修了しました。私のキャリアの大半は看護学教育に従事してきました。聖路加看護大学に助手として勤務の後28年間教育・研究に携わり(3年間博士課程に進学させていただきました)、その後、本年3月末までの10年間、慶應義塾大学看護医療学部で教育・研究を続けて参りました。そして、人生の後半に再びなじみ深い土地で皆様とともに看護について学べますことに喜びと感謝の気持ちで一杯です。

私の専門分野はがん看護学、緩和ケア、慢性看護学です。病や苦痛を抱えながら生きている人々のケアです。患者中心の医療・ケアを推進するために、教育・研究に従事するほか、がん患者サポートグループの推進、ケアガイドラインの開発など実践開発と普及に専心してきました。その活動により、佐川看護特別賞、日本がん看護学会賞、慶應義塾賞などを頂いております。

社会的活動では、日本学術会議会員、日本看護系学会協議会会長、日本看護系大学協議会理事、日本がん看護学会理事長、アジアがん看護学会理事などを務め、国内外の看護学の発展に寄与するための活動を日夜行っています。

学長就任後の私の使命は、人道理念に基づく学び舎の発展です。大学では、学生の生命と安全を守るための対策、オンライン学習の推進等、学生が安心して学習を進めることができよう、教職員をあげて様々な対策を行っています。新米リーダーのもとですが、赤十字の歴史と伝統を継承する大学として、どのような状況にあっても「一人一人の命と尊厳を守る」を基盤に、この難局を乗り越えているところです。

世界が直面している危機は一人では乗り越えることはできません。不確実で目まぐるしく変化が起こる中、つながりを感じることで前に進む勇気や力を沸かすことができます。種々の制約を強いられる日々が続きますが、学生達が、この学び舎に集い、支えあう仲間であることを感じつつ、我々が備えているレジリエンス(回復力や耐える力)を高めていけるよう、最大限の努力を続けて参ります。そして、「ひとりを見る目、その目を世界へ」を忘れることなく、未来への希望を信じて日々を大切に歩みを進めます。どうぞ皆様には、引き続きご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新型コロナ感染症による世界的危機が起こっている中、看護師の使命は極めて大きく、そのために、看護学のさらなる発展が求められています。赤十字ならびに看護界の連携と協働の輪を広げていく中で、本学もその一助を担って行きたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



こまつ ひろこ  
学長 小松 浩子



# 本学における新型コロナウイルス感染症対策について



今年3月からの新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、今年度の前期はオンラインでの授業実施を原則とすることとし、学内の方針および行動指針を策定しました。

オンデマンド授業の作成方法やZoom(オンライン会議システム)の使用方法を教職員で共有し、教育の質の保証が担保できるかについての検討を重ねつつ、5月連休明けから授業開始致しました。

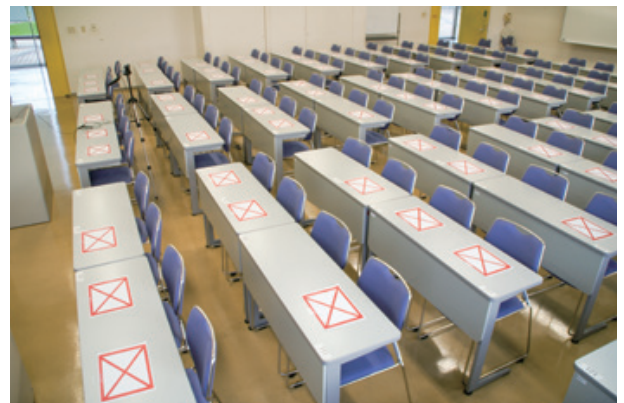
本学が導入しておりますシステムOffice365のアプリ"Forms"を活用した確認テスト、課題レポート等を組み合わせた学習内容とし、十分な学修時間が確保できるよう2週間に2~3コマ分を受講する構成としたうえで、サポート窓口を整えトラブルや学生からの意見・要望を受け付け、対応しました。対面での実施を要する演習系科目においては、密にならないよう動線等も考慮した十分な感染防止対策を講じました。このように、学生の皆さんがキャンパスに通えない状況においても十分な学修ができるよう、教職員一丸となった連携のもと、無事、前期を終了することができました。

学生からは、「オンデマンドの授業に戸惑いもあったが、何度も視聴することができて、かえって力がついた」という底力を感じる力強い言葉を聞くこともできました。

後期についても、遠隔授業による学習と対面授業を組み合わせた授業構成となる予定ですが、個別学習のために教室開放を行うなど、学生ひとりひとりの学びをサポートしていきます。

対面授業では感染管理を徹底して実施しますので、近い将来、看護の現場に立つ学生の皆さんとともに、赤十字の一員としての矜持を持って、ピンチをチャンスに変えていきたいと思っております。

新型コロナウイルス感染症に対する本学の対応の流れ			
R1年度	後期	3月6日	○ 令和元年度卒業式を規模を縮小して開催
		3月~	○ 学生・教職員に健康管理表の記録を要請 ○ 学生の構内立ち入りの自粛を要請
R2年度	前期	4月1日	○ 学部2年生ガイダンスを対面にて実施
		4月2日	○ 新入生ガイダンスを対面にて実施  ○ 3、4年生ガイダンスの対面での実施を中止 (5月7日~ ガイダンス動画をオンデマンド配信)
		4月3日	○ 令和2年度入学式を中止  ○ 学生の構内立ち入りを制限
		オンライン授業の開始に向けた諸準備	
		5月11日	○ オンライン授業の配信を開始
		5月27日	○ 行動指針レベルを制定
		6月25日	○ 行動指針レベルの引下げ
後期	後期	7月~	○ 対面授業の分散実施を開始
		9月下旬	○ レベルⅣ実習(3年生)を学内実施に変更して開始 ○ 後期ガイダンス(全学年・対面)を実施 ○ 全学生に対し学生支援給付金を支給



ソーシャルディスタンスを確保するため、貼紙をして座席指定をしています

4/7  
政府が緊急事態  
宣言を発出

5/25  
緊急事態宣言  
解除

学内の各所にて、手洗いやマスク着用などの感染症対策について注意喚起しています



## アカデミック・アドバイザー(AA)制度を利用した学生の健康管理について

健康管理表		普段の体温( )℃							学籍番号( )							氏名( )								
日付( )	月	日	朝		昼		夜		朝		昼		夜		朝		昼		夜					
			1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2				
体温測定値(℃)																								
身体状況	(0)まったくない (1)少しある (2)多い(強い) (3)とても多い(強い)																							
強い倦怠感	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
息苦しさ(呼吸困難)	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
咳嗽・喀痰	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
悪寒・関節痛	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
嗅覚・味覚の障害	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
頭痛	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
鼻汁・鼻閉感	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
胃腸炎症状(嘔吐・下痢)	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
1週間以内の発熱・水疱などの皮膚症状や耳下腺の腫脹	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
その他の症状( )	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
濃厚接触者が上記症状及び発熱状態にある場合の有無 (0)ない (1)ある ※濃厚接触者は、保健室に届出を必ず行なう必要があります。到着していない学生等は、保健室に届出を必ず行ってください。	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1		
最終的に行動(濃厚接触者以外での濃厚接触があった場合、学外サークル等)																								

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、週に一度、学生の健康チェックを実施しています。

学生は健康管理表をAA教員へ提出し、AA教員は担当学生の健康状態を確認するとともに、健康上の様々な相談を受けています。5月からは保健室担当職員が着任したため、現在はAA教員に代わり保健室職員が学生の健康管理を行っています。

(左の表)

学生ひとりひとりが毎日の健康状態を記入するようにしている健康管理表です。医療従事者を目指す者として、毎日体温を測ることを習慣づけています。また、この表は、大学に講義等で登校する際に必ず持参するようにしています。

## アカデミック・アドバイザー(AA)制度とは…

本学では、平成30年度から少人数で異学年相互の学習機能の向上を狙った縦割り形式の「ゼミ」として、新たに「アカデミック・アドバイザー(AA)制度」及び「AAゼミ」を導入しています。AA制度とは、専任教員がAAとして学生一人一人を担当し、学生の成績(GPA)や履修状況等を考慮しながら、履修相談や学生指導を行う制度です。AAが入学時から卒業時まで継続的に指導する体制をとることで学生の修学指導に責任を持ち、また、きめ細やかな学生のサポートの実現が期待されます。

### ▶ 何のためのAAなの?

- (1) 学年を超えた主に生活に関する相互支援を強化するため(情報の共有と情緒的つながり)
- (2) 個別の学生に対する大学からの支援を充実・強化するため(学生の特性に応じた指導・支援を享受できる環境整備)

### ▶ AAって何をしてくれるの?

- (1) 各教員がAAゼミを持ち、入学から卒業まで継続的に特定の学生を受け持ちます。
- (2) 主に生活・キャリア等について相談に応じ、助言します。必要に応じて個別に面談し指導の機会を設けます。
- (3) ゼミを活用し、学生相互の「仲間意識」の形成・発展を図ります(ゼミは、既定以外にも適宜開催可)。
- (4) AAゼミ担当教員が、支援を必要とする卒業生の相談に応じ、適宜、連絡窓口となります。

## 学生のメンタルサポートについて

本学ではAA制度以外にも、学生のこころと体のサポートとして、以下の体制を整えています。学生生活を送る中で感じる心配なこと、不安なこと、落ち込むこと、いらいらすること、家族や友人のこと等について、誰かに話してみたい、相談にのって欲しいと思ったときにいつでも利用できます。

学生相談…臨床心理士による面談    学校医相談…心療内科医による相談    学生相談ダイヤル…臨床心理士等による電話・webカウンセリング

## 保健室職員の紹介



こんにちは、保健室職員の江口成美と申します。今年度から保健室を担当しています。昨年度は、非常勤助手として、3年生の老年看護学実習を担当していました。そして、今年の4月からは青年海外協力隊の看護師隊員としてドミニカ共和国へ派遣予定だったのですが…新型コロナウイルス感染症の影響で延期になってしまいました。しかし、御縁あってまた学生さんたちとお会いでき、関わられることを嬉しく思っています。

保健室では週に1回学生さんの健康状態の確認を行っています。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、学校生活が大きく変化しており、そのストレスが精神面や身体面に表れている学生さんも見られました。そんな学生さんたちが気軽に相談できる場を作っていきたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

えぐちなるみ  
保健室職員 江口成美先生

今年度からスクールカウンセラーが交代しましたので、お知らせいたします。新たに着任されました奥田綾子先生は、次号でご紹介いたします。



## 学校医・宮田正和先生による「新型コロナウイルス感染症に関する講義」を実施しました

7月末頃からの全国での新型コロナウイルス感染症第2波により、福岡県内でも感染者が日ごとに増加し始めました。学生に正しい知識を身につけ行動につなげてもらうことを目的に、8月7日(金)に学校医の宮田先生による講義を実施しました。本講義は、これから始まる後期科目履修の前提条件として、全学生が受講しました。

講義では、新型コロナウイルス感染症に関する基礎的な知識と日常生活、実習先や学内での予防行動を中心に、感染症の流行期に心の健康を保つためにどのように生活すればよいか、「コロナうつ予防のため日常生活を規則的に送るための11カ条」の解説など、心療内科がご専門の先生ならではのお話もありました。受講した学生の皆さんは、予防行動の重要性に関してあらためて理解を深めたようでした。

### 学生の感想

#### ● 講義で学んだことについて

コロナウイルスは、症状が出ないうちにほとんど感染させるということは知らなかったので、一番驚きました。また、感染しないためには、予防が大切だと改めて思いました。「人間は1時間に23回も無意識に鼻に触る」ということを知って、私も無意識に触ってしまっているなどと思い、顔を触らないなど、自分が意識してできる予防対策が多いなど思いました。

今回の講義では特にマスクの重要性を学びました。マスクをつけるだけでなく、こまめに交換したり、マスクを外す際に汚染されている外側の面を触らないようにしたりするなどの留意点も今後意識していきたいです。また物理的にマスク着用で感染リスクが約8割も減少することなどから、マスク着用の重要性がより学びました。

これまで世界中で様々な感染症が発生してきていますが、ここまで自分にとって脅威となる感染症は初めてであり、不安が強かったのですが、今回の授業で知識を深めることができ、不安が軽減されました。来年には看護師になる身として、自分自身の感染対策をしっかり行っていこうと思います。

#### ● これまでの自分の行動を振り返り、できていたこととできていなかったことについて

マスクや手洗いの徹底、アルコール消毒は日常的に感染予防対策として行うことができていたが、ソーシャルディスタンスをしっかりと確保することはできていなかった。

講義の中で、バランスのとれた食事や十分な睡眠が大事と聞き、自身の生活を振り返ったとき、不規則な起床と就寝時間だったので、今後は自分でコントロールできるように改善しなければならぬと感じた。

#### ● 今後の自分の行動をどのようにするかについて

これから大学での演習や実習が始まるので、周りの人も自分も感染しないよう、日頃から責任を持った感染予防行動をしていきたいです。また、今までできていたことは継続して、できていなかったことや、今回の講義で新たに学んだことは新しく取り入れていきたいです。

これからは、感染予防しながら登校したり外出したりすることが増えると思います。今回の講義で正しい知識を身につけることができたと思うので、それらを活かしながら生活していきたいです。また、手洗い、うがい、アルコール消毒、咳エチケットなどに十分に意識を持ちながらウイルスと向き合っていきたいです。



相談窓口にはアクリルパネルを設置しています



講義室入室前に手指消毒用のアルコールを設置

## 令和2年度看護学臨地実習について

看護教育において、臨地実習は講義及び演習で学んだ知識や技術を病院などの臨床現場で応用し実践する重要な授業科目です。

しかし本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、感染拡大防止の観点からも、年内に予定されていた保健師課程以外の臨地実習に関しては、学内実習およびオンラインでの実習へ変更となりました。

学内・オンラインで行う実習における教育の質保証については、慎重に検討を重ねてまいりました。臨地における実践は、対象の特性にあわせて看護技術を実践する機会であることから、学内・オンライン実習においても、事例を用いたロールプレイや、シミュレーター、VR(バーチャルリアリティ)の機器を使用した実践、また臨床現場の指導者にオンラインでカンファレンス(会議)に参加していただき、指導を受ける機会をつくることなどを実習内容に取り入れています。

学生たちは、臨地での実習を経験できないことに、不安に押しつぶされそうになりながらも、置かれた状況の中で頑張るという声が上がっており積極的に学内実習に取り組んでいます。



# 新しい学生生活が 求められる中で

本学では、4月に発出された新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言を受け、学生及びそのご家族の安全を優先し、講義が全てオンライン下で実施されるようになりました。緊急事態宣言が解除された今では、徐々に対面での講義や演習などが計画・実施されるようになってきています。

今回は、学生の皆さんにオンライン講義で感じたことについて尋ねてみました。



遠隔授業の準備のため、カメラに向かって講義をする苑田講師

## 〈学生の声〉

今回のオンライン授業という新しい試みにおいては、時間を設定して自分のペースで学習を進めることができ、先生の言葉1つ1つを漏らさず聞き取ることができました。しかし、対面授業に比べて先生と学生間のコミュニケーションが取りづらいため、会話の発展が少ない、先生に質問しづらい、学生同士が話し合いによって学びを深める場がない、というデメリットを感じました。

1人暮らしの私は、通常の大学生活でも家事と勉強のスケジュール管理をしています。オンラインでは本来の授業のように時間の決まりがなく、自分次第で学習が進められていくため、日々のスケジュールを壁に貼り目視することで意識を高く持ち、更なる自己管理に努めました。また、授業内容について理解を深めるため、仲間との情報共有できるグループ電話を使用していました。

自らの体験や経験は、得た知識を落とし込むという面で不可欠なものです。その一方で、対面授業に参加できない環境にある方々の可能性を広げるという意味では、オンラインという新しい手段を継続することも必要だと思います。新しい生活様式が求められる今、このように良い部分を残しつつ、新しい方法を選択し、対応していく柔軟性が大切だと考えます。

新型コロナウイルスが日本国内だけでなく、世界各地で大流行となりました。その影響でオンライン授業となりました。オンライン授業では生活のリズムを整えるのが非常に大変だったと感じます。通常授業であれば大学へ同じ時間に通っていましたが、そのようにすることで、就寝時間と起床時間を一定に保っていました。しかし、オンライン授業となり、自宅でのリズムを確立して学習を進めていかなければなりません。その上、友人たちとの会話も制限され、1日中誰とも会話をせずに過ごした日もあり、かなりモチベーションが低下しました。それは1年間大学で通常通り過ごした私たち2年生にとっても大きなストレスでしたが、入学以来登校することがあまりなかった1年生にとっては計り知れないほどのストレスだったと推測できます。

このオンライン授業には、このような大変な面だけでなく、利点も存在しました。その1つが授業で十分に理解ができなかった回に関しては何度も見返して復習することができた点です。通常授業は1度きりです。何度も復習することで理解度を高めることができたと思います。

私が対面授業ではなく、オンライン授業などのネット環境下での授業となり良かったと感じたことは、通学時間がなくなり、授業をより万全の態勢で受講できるようになったことや、講義が録画されているため何度も見返して自分のペースで勉強できたので、より理解が深まったことです。

逆に大変だったことは、対面授業では1度で理解できたように感じる内容も、録画された講義は何度も見ないと理解ができなかったり、zoomを用いた講義では講義に参加するためのリンク先が貼られたメッセージを多くの情報の中から探す必要があり、友人と協力してリンク先を探したりしなければいけなかったことです。講義プリントに関しても、量が多いことで全てを印刷することができず、最後までスマホの小さな画面を見ながら受講していました。また、わからないところをすぐに友人や先生方に質問ができないことも、少しやりづらいなと感じました。ネット環境によって講義が中断されることがよくあり、戸惑いが生じた場面も多々ありました。

オンライン授業を通して、改めて対面授業の良さやありがたさを感じるすることができました。

## クリティカルケア実習

今年度に予定しておりました保健師課程以外の臨地実習が、学内実習およびオンラインでの実習へ変更となりました。本学教員がどのような工夫をして学内実習を行っているのか、ご紹介します。

### クリティカルケア実習(3年次科目)

～学内実習へ変更となって～

(担当教員:講師 苑田 裕樹)

本来であれば、3年生になるとクリティカルケア実習では福岡赤十字病院、小倉記念病院、飯塚病院、JCHO九州病院のICUや救急センターで臨地実習を経験して学んでいるところですが、本年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受け、すべての過程を学内実習に変更して行うこととなりました。臨地実習を経験できないということは非常に残念ですし、臨地でしか経験できない、学べないことは確かにあります。しかし、学内実習だからこそ強化できること、工夫することで学びの効果を高めることはできるはずだと考えています。我々教員はそこに着目して、現場と同様のプロセスで看護を学ぶ環境、システムを作り、より現場に近い学びを保証することを目標として学内実習を設計しましたので紹介いたします。

### Formsを利用したWEB電子カルテの配信

時間になると電子カルテの情報が更新されます。現場さながらリアルタイムで情報を得ながら看護を展開していきます。学生はペア、チーム単位でWEBカンファレンスを行い、inputとoutputを繰り返しながら知識やアセスメント(分析、統合)力を磨いています。また、患者さんご本人に代わって治療を選択したご家族が治療選択について後悔されている場面など、複数のビデオ教材を作成しました。

このような場面を通して、そして実習病院の師長さんや指導者さんがWEBカンファレンスに参加してくださることで看護の専門性、役割、態度について学ぶ機会を設定しています。

#### 2. 主訴: 呼吸苦

現病歴: 7年前に心筋梗塞を発生しPCI施行しているが、心筋の壁運動の低下を認め、加えて腎不全に伴い心不全の悪化に伴う呼吸不全を認めている。腎不全はシャントを進めているが本人の意向により施行していない。また、15年前から高血圧もあり、心食事が強く、心不全を発症しやすい状況にある。  
別居の長女が毎晩電話をかけて体調を確認しているが、今回、4～5日前から完食がなかったようで、昨日から呼吸苦の訴えがあり、心配した長女が患者宅に訪れていたところ、朝方5時すぎに強い呼吸苦を訴えていたため、救急車を要請し、当院救命救急センターへ搬送となる。

#### 搬送時バイタルサイン

A: 発語あり、気道開通 (Weezes聴取)  
B: 努力呼吸音、RR20回/分、SpO2 90% (一時補助換気施行、リザーバースマスク10L)、両肺Weezesと水泡音を著名に聴取、鼻汁なし、喀痰なし、聴診器なし、胸郭の挙上は左右差なし  
C: 顔面蒼白、末梢冷感・湿潤あり、チアノーゼあり、BP186/96mmHg、HR123回/分、下肢の浮腫両側著明(3+)、胸痛なし、下肢の痛みなし  
D: GCS E3V5M6、瞳孔なし、瞳孔対光反射3+/3+、頸痛なし  
E: 外出血なし、発熱なし、悪臭なし

自原は50程度あったがここ数日は少なかった。下痢・嘔吐なし、腹痛なし、全身の発疹なし、いつも異なる薬物の服用なし、虫刺され等なし

CT: 両肺うっ血所見を認める  
胸XP: 両肺うっ血所見著明、CTR55%  
エコー: EF 45%、両肺A line著明  
12誘導ECG: 洞性頻脈、ST変化なし

主治医 山本先生の診察時間 10月2日 PM16:00

(以下の動画が視聴できない人はこのURLから視聴してください)

<https://web.microsoftstream.com/video/5cc33c3b-247b-40c3-b323-e051e688ae61>

検査 胸部レントゲン

両側の肺うっ血はやや改善しているが、以前、強いうっ血を認める。

加藤うめ氏 診察時間

加藤うめ氏 診察時間

加藤うめ氏 診察時間

加藤うめ氏 診察時間

加藤うめ氏 診察時間

加藤うめ氏 診察時間

加藤うめ氏 診察時間

加藤うめ氏 診察時間

加藤うめ氏 診察時間





Zoomでのオンライン授業の様子



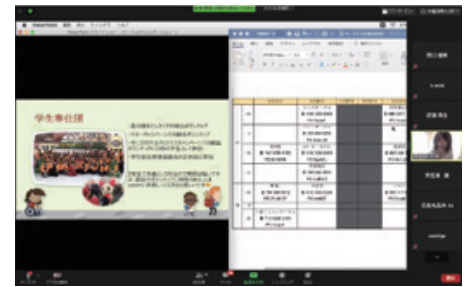
初めてオンラインでAAゼミをする様子



入学してから大学に来られない日々が続く1年生の状況を受け、上級生の学生たちが有志で1年生をサポートする団体「ビスケット」を発足しました。

## ビスケット=微力ながら助っ人します

最初の活動としてメンバーの先輩たちが新入生向けの動画を配信しました。  
次号ではビスケットの活動を取り上げる予定としています。



ビスケットは、新型コロナウイルス感染症の影響により、大学生活を思うようにスタートできなかつた1年生の支援活動をしている学生有志団体です。

私は自身のInstagramに「学生生活の困り事をみんなで乗り越えてきた私たち(先輩)が動けば、1年生が今よりは安心して大学生活をスタートできるかもしれない。1年生を支援する企画をしてみませんか。」と投稿しました。すると反響が大きく、「同じことを考えていた!」「何かしたいと思っていた!」と同級生や後輩たちから多くのコメントをもらったことがきっかけで発足しました。

企画の趣旨に賛同してくれた2~4年生とともに、Zoomを利用した大学生活に関する情報発信や1年生が気軽に相談できるような縦割りグループ作りなどを行ってききましたが、現在までに活動に関わってくれた学生は70名以上にのぼります。

この企画は、困難な状況下でも周りのことを考えられる頼もしい学生やいつも学生ののことを考えてくださる先生方の「1年生の助けになりたい」という強い気持ちで成り立っていると私は思います。1年生の皆さん、大学にはそんな優しい先輩や先生方ばかりです。是非今後も私たちの企画を活用してください。そして、有意義な学生生活を送れるよう共に頑張っていきましょうね!

(4年 増元 さち)

入学当初の私は、新しい環境にもなかなか慣れず、心細い思いを経験しました。そのため、今年度の7月になっても大学に行けないう状況にあった新1年生の心細く不安な思いがとても理解でき、力になりたいと思うとともに、企画発案者の増元さんの前向きに1年生のことを考える素敵な思いに共感し、「少しでもわたしにできることや力になれることはないかなあ。」とビスケットの活動に参加しました。

ビスケットの活動中は、慣れないリモートでの実習や講義で忙しい日々を送っていましたが、リモート上での1年生との会話や、活動のためのビスケットメンバーとの多くの交流を通し、活動について話し合う時間が私にとって憂鬱であった自粛期間を有意義な時間にするのができたと感じています。

当たり前が当たり前でなくなったときに、その現実を悲しむだけではなく、前向きに自分ができることを探し、どんなに小さなことでも行動する大切さに改めて気づかされました。この活動が、新1年生が新しい仲間を作るきっかけやほんの少しでも心の支えとなり、学校生活を楽しみに感じてもらえていたらうれしいです。(^^)

(4年 田口 優希)

### 仮想ICUでのシミュレーション教育

本学には、呼吸や心臓の状態を病気に合わせて再現できる高機能なシミュレーターがあり、これを使用したシミュレーショントレーニングが可能です。事例の病態や症状を再現できるので、検査結果など電子カルテの情報と統合しながら観察内容、観察結果を学習していきます。何よりここでは何度失敗しても大丈夫ですので、「よし、できた!」と自分自身が納得できるまでトレーニングすることができます。写真左はフィジカルアセスメント(呼吸音聴診)をしている様子、写真右は複数の管が挿入されている患者さんに対して安全に生活を支える援助を練習している様子です。



### VR動画の作成(前橋赤十字病院協力)

ICUや高度救命救急センター、ドクターヘリの機内など、病院の協力を得て、360度カメラでVR動画を作成しました。現場を見ることができないため、VR動画を活用して、その場にいる感覚で環境や設備について学ぶことができます。下の写真はドクターヘリの機内の様子です。実際にはVR動画としてドクターヘリに搭乗している雰囲気や機内の様子を視聴できます。







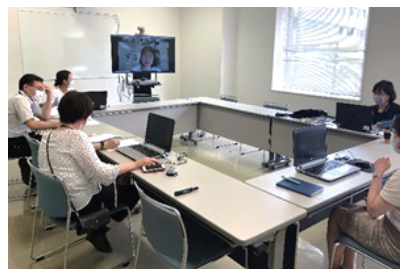
2020年4月に入学した1年生が、科目「赤十字救護・援助法」にて赤十字救急法基礎講習および赤十字救急法講習を受講しました。本科目は、履修が必須となっており、赤十字の特色を活かした科目となっています。学生たちは、赤十字救急法指導員である日本赤十字社福岡県支部の職員や本学の事務職員より指導を受け、2日間にわたる講習にまじめに取り組んでいました。また、入学してからなかなか登校できなかったこともあり、対面での講義を楽しみながら受けていました(密を避けるため、1学年を2グループに分けて実施しました)。

私は前期に「赤十字概論」「赤十字活動」を学び、赤十字は世界へ向けての活動だけではなく国内での災害救護活動や救護法等の講習など、幅広く活動していることを知りました。実際に「赤十字救護・援助法」で救護の実践を学び、いつ第一発見者になるかわからない中、正しい知識と方法で一つの命を救うことのできる素晴らしさを教えていただきました。赤十字で学んでいる者として、傍観者にならず積極的に行動していく役割を担っていきたいです。(1年 空 和花)

赤十字救急法講習全体を通して、私は机上での学習でいくら理解していても実際にやってみると難しいということに気づきました。今回実際にやった止血法と心肺蘇生法はどちらも小学校・中学校・高校で机上で学んでいるものです。何度も学習しているはずなのに実際にやってみると、援助に自信がなく、スピーディーかつ正確にはできませんでした。わかっているつもりでいたことに気づかされ、私にとって貴重な講習となりました。(1年 田中 綾人)

大学院

## 大学院生交流会を開催しました



6月5日(金)に今年度最初の大学院生交流会が開催されました。

今年は新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインによる画面越しの交流会となりました。

大学構内への立ち入りもできないため、大学院生どうしの交流もオンライン授業での画面越しです。このような事態は誰にとっても初めてのことで皆さん大変だと思います。私自身、慣れないオンラインでの授業にあたふたしながら大学院生生活がスタートしました。

今回の交流会では、まだ一度も交流の機会がない先生方や先輩方との顔合わせの場ともなりました。特に、同じ助産教育コースのM2(修士課程2年生)の方と顔合わせをすることができ、心強く感じました。

参加した皆さんの「他の人からは〇〇と思われがちですが、実は自分は△△です」といった自己紹介を通して、皆さんのちょっとした一面を知ることができ、緊張がほぐれ楽しく参加することができました。

先生方や先輩方からのアドバイスを聞き、これからの大学院生生活に活かし充実した学びができるよう頑張っていこうと思いました。(助産教育コース 修士課程1年 笠井 麻結)



講義・  
教員紹介

# 災害と看護を学ぶということ

～“知っている”ことが最大の武器、まずは興味・関心を持って～

日本赤十字社の事業のひとつに「国内災害救護」があります。本学には、災害の最前線で医療活動にあたる看護師を目指している学生も多くいます。そこで今回は、学部の講義科目「災害と看護」についてご紹介します。

日本では、毎年多くの災害が発生しています。今後、大規模災害が起こると予測されている中、看護職者への期待も高まっています。災害に関する知識をもつことは、自分の命を守るため、大切な人の命を守るためにも大切です。本科目では、看護職者として必要な基礎的知識が習得できるよう、授業構成を組み立てています。

本講義を受ける学生の多くは、災害を経験していませんので、災害に対するイメージがつかみにくいと思います。そのため、映像や事例だけでなく、赤十字救護班の一員として派遣された経験や管理者の立場から災害支援に携わった経験を持つ看護職の方から実際に話を聞く機会を設けています。大切なことは、まず「災害看護」について興味・関心をもってもらうことです。災害ってなんだらうという疑問からで十分です。学生のみなさんと一緒に考えることを大切にしながら講義を進めていきたいと考えています。



## 担当教員にインタビュー

### Q 看護師を目指したきっかけを教えてください

A はじめから看護師を目指していたのではなく、文系の大学を卒業して就職しました。学生時代に、ある医師に助けられた経験から、私も誰かの助けになりたい、力になってあげたいという思いが芽生えました。就職活動中、その医師から「君ならいい看護師になれると思うよ」と言われましたが、当時の私には、看護大学に入りなおす勇気はありませんでした。就職はしましたが、医師から言われた言葉がずっと心に残っていました。社会人経験を積んでいく中で、看護の道に進みたいという思いが強くなり、社会人枠で看護大学に入学しました。

### Q 現在の領域(クリティカルケア・災害看護)を選んだ理由はなんですか？

A 助産師として病院勤務していた時、新潟県中越沖地震が起こりました。私の上司だった師長に、災害支援に行きたいと申し出ました。しかし、師長から「あなたのすべきことは、災害現場に行くことより、病棟のことを学ぶこと」と言われました。今の私であれば、師長の判断は正しいと考えられますが、その時は悔しい思いでいっぱいでした。このことがきっかけとなり、災害現場で活動できる看護職者を目指すことになりました。師長は、災害看護を学ぶための支援をしてくれました。東日本大震災のときには、災害支援ナースとして快く支援活動に送り出してくれました。今の自分があるのは師長のおかげです。とても感謝しています。

### Q 教員の道に進んだきっかけは？

A 博士課程修了後、臨床、教育のどちらに身を置いた方がよいか考えました。教員の時、学生から多くのことを学びました。また、これから看護師として羽ばたいていく学生と、もう一度歩んでみたいという気持ちがありましたので、教員の道を選びました。

### Q 学生にどのような看護師になってほしいと思っていますか？

A 一方的な支援でなく、患者様やそのご家族と一緒に考え、ともに歩みながら成長して欲しいと思います。臨床時代を振り返っても、私は、患者様やそのご家族にたくさん助けられ支えていただきました。「こんな看護師になりたい」という初心の思いを忘れずに頑張りたいと思っています。

### Q 担当する授業で、学生たちにどのような姿勢で、どのようなことについて学んでほしいと思っていますか？

A 赤十字は、災害に関わってきた長い歴史があります。被災地では、被災者の「赤十字の救護服を見ると安心する」「待っていました」という声を実際に聞き、信頼の高さを実感しました。学生にも赤十字の一員であるということ誇りに思ってもらいたい。看護職としての「人道」の責務をととても大切にしているのが赤十字です。災害看護は、専門に関わらず、すべての医療職者が関係してきます。チームとして動くということが大切です。災害支援の経験がなくても、日々の取り組みが全てにつながっていきます。日々の生活の中で自分のできることは何か、考えてほしいと思います。まずは、災害看護に興味・関心を持ってほしいというのが正直な気持ちです。

### Q 印象に残っている学生とのやり取りはありますか？

A 卒業時に「すごく(勉強が)大変だったけど、いい思い出になりました。頑張ります」と笑顔で話してくれる姿が、毎回とても印象に残ります。自分の目標を見つけて、前を進もうとしているみなさんの姿は、眩しくて羨ましくも感じています。「これからは、看護仲間になるので一緒に頑張っていこうね」と伝えられるのも、本当にうれしく思います。



クリティカルケア・災害看護領域 助教 **小川 紀子**

### 略歴

- 2007年 長野県看護大学看護学部看護学科 卒業  
病院に6年間勤務
- 2012年 長野県看護大学看護学部看護学科助手(母性・助産看護学)
- 2015年 長野県看護大学大学院看護学研究科博士前期課程(看護学専攻) 修了  
東京純心大学看護学部看護学科助手(基礎看護学)
- 2016年 佐久大学看護学部看護学科非常勤講師(災害看護論)  
東京都立荏原看護専門学校「災害看護」トリアージ演習助手(非常勤講師)  
帝京科学大学医療科学部看護学科非常勤講師(災害看護学)
- 2017年 関東学院大学看護学部看護学科非常勤講師(災害看護学)
- 2019年 日本赤十字看護大学大学院看護学研究科博士後期課程(看護学専攻) 修了(国際・災害看護学領域)  
日本赤十字九州国際看護大学看護学部看護学科助教(クリティカルケア・災害看護領域)





# 第1回 オンラインオープンキャンパスを 開催しました



8月9日(日)にオンラインオープンキャンパスを開催しました。今夏のオープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、参加可能人数を設定し、高校3年生のみを対象として、来学していただくかたちでの開催を予定していました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の再拡大を受け、来場予定の皆様の健康と安全面を第一に考慮し、急遽オンラインでのオープンキャンパスへと実施形態を変更しての開催となりました。

オンラインオープンキャンパスでは、全体会として小松学長挨拶から始まり、中村学部長より大学概要、入試広報課より本学の入試制度・奨学金についての説明を行い、最後にキャンパスツアー映像の配信を行いました。

全体会終了後には、本学教員によるオンライン個別相談会を実施し、個別相談会への参加者からは、入学後の学生生活や教育内容、入学後の費用についてなど幅広く、たくさんの質問がとんでいました。

## 2020.8.9 第1回オンラインオープンキャンパス 当日スケジュール

- 10:00~10:10 学長挨拶
- 10:10~10:30 大学概要説明
- 10:30~10:55 入試・奨学金説明
- 11:00~ 個別相談会



## オンライン個別相談会・大学見学会を受付け中です!

新型コロナウイルス感染症により、オープンキャンパスや進学相談会が中止となっている状況の中で、進路選択のための情報収集に不安を感じていらっしゃいませんか?

本学では、入学試験・奨学金、学生生活など様々な疑問や相談について、Zoomを利用して個別にお答えするオンライン個別相談会や、実際に大学を見てみたい、施設を見学したいというご希望にお応えするため大学構内を巡る大学見学会を開催しています。各企画とも、本学ホームページからの事前予約制となっています。ご興味のある方は、是非お申込みください!

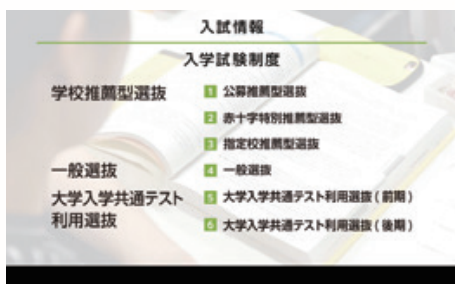
※詳細につきましては、ホームページでご確認ください。

(こちらの QR コードからも見るができます→)



## 大学紹介映像を公開しました

2020年8月より、大学構内を巡る「オンラインキャンパスツアー」と題した大学施設紹介映像や本学の特徴、進路情報、奨学金、入試情報について集約した大学案内映像の2種類を本学ホームページに公開しました。受験生の皆様に、本学のことを知っていただく1つのツールになるとともにその他多くの皆様にも本学のことを知っていただける機会となることを願っています。





ひとりを看る目  
その目を世界へ

本学のスローガンである「ひとりを看る目、その目を世界へ」とはどのような意味を持つのか、学生ひとりひとりが考えるきっかけとなるコーナーです。

今号のテーマ

## 感染症拡大の状況下で働く卒業生

### 【経歴】

- 2001年4月 日本赤十字九州国際看護大学看護学部看護学科 入学
- 2005年3月 日本赤十字九州国際看護大学看護学部看護学科 卒業
- 2005年4月 日本医科大学付属病院 入職  
高度救命救急センター スタッフナースとして勤務  
(～2009年3月迄)
- 2009年4月 日本赤十字九州国際看護大学  
クリティカルケア・災害看護学領域 助手として勤務
- 2013年4月 山口大学大学院医学系研究科保健学専攻博士  
前期課程 入学
- 2015年4月 日本赤十字九州国際看護大学  
クリティカルケア・災害看護学領域 助教として勤務
- 2016年3月 山口大学大学院医学系研究科保健学専攻博士  
前期課程 修了  
保健学修士号を取得
- 2019年4月 熊本赤十字病院 へ出向  
救命救急センター スタッフナースとして勤務(現在に至る)

### なぜ赤十字の大学を選んだのか

出身の宮崎県には赤十字の病院がありませんので、赤十字に対するイメージはとてほんやりしたものでした。将来、国際的に活躍できる人になりたいと思った時、どんな専門性を身につけていたかを考え看護職を目指しました。そして、TVで見た紛争地や被災地に掲げられた赤十字のマークの記憶を頼りに入学を決めました。

### 私の大学生活

私たちは一期生でしたので、そもそも大学とは何をするとところなのかも分からないままに学生生活がスタートしました。どうすれば「楽しいか」を基準にさまざまなことを一から作り上げる過程は、自由であると同時に大きな責任もありました。学生自治会の立ち上げに関わりましたが、リーダーシップやメンバーシップを学ぶ機会となりました。大学で出会った100人ちょっとの個性的な同期生と、少しずつ増えていった後輩、先生方とともに物事を作り上げる経験は、チームの中で求められている役割は何か、自分の立ち位置はどこかを考え行動する基礎をつくる場になったと思います。

国際看護学の授業の一環として企画されていた海外研修でベトナム社会主義共和国とミャンマー連邦共和国を訪問したことも忘れられない経験です。日本から私たちが来たことの意味は何かを



熊本赤十字病院  
看護師  
(本学助教)  
福島 綾子さん

考え、1日中議論を繰り返しました。国際的に活躍できる人＝海外で働く人ではないということもその時に気づくことができました。議論の結論はまだ出ていませんし、さまざまな経験を経てあの頃から考え方も変化していますが、私たちがベトナムやミャンマーで「見たことの責任」を果たすために、今も考えることを続けています。

### 臨床現場に出て思うこと

私は2019年4月から出向職員として熊本赤十字病院の救命救急センターで勤務させていただいています。臨床現場から離れている時間がしばらくありましたので不安もありましたが、教員という立場で改めて考え、学んだ「看護」を実践する機会にとっても感謝しています。また、教え子とともに働くことで彼ら・彼女らの成長を目の前で実感できることはとても貴重な経験です。

2020年はCOVID-19という未知の脅威との闘いの年となりました。医療チームで繰り返し意見交換しながら、思考錯誤の日々です。しかし、これまで培ってきた「原理原則」がとても重要だと感じることが多くですし、緊急事態にあってもいつもと変わらず患者・家族への看護を実践することの重要性と責任を感じています。

### 学生へのメッセージ

隣にいる人とたくさん話をしてください。「私はこう思う」を恐れず言葉にすることが大事だと考えています。たくさんの人と意見を交わすことで、違うように感じていた考え方の方向性が同じことに気づいたり、自分の考え方の傾向を知る機会になったりすると思います。そして、たくさんの方の価値観に触れることは、今後の財産となるはずです。初代自治会長は「楽しい」を探すプロであると同時に、私に俯瞰的視点の持ち方やメンバーを信頼して任せることの重要性を教えてくれた人物です。海外研修で議論を繰り返した同期生や後輩は、今でも私にたくさんの刺激をくれます。

最後に、看護職の幅はとても広いことを知っておいてください。病院で働くだけでなく、農家へ嫁ぎ地域医療のことを日々考える人、海外で働いている人、看護とは全く違う分野で活躍する人など、いろいろな場所で仲間が今でも自分の「楽しい」を探していることが私の自慢でもあります。皆さんの可能性はいろんな方向に広がっていると思います。たくさん「楽しい」を探してみてください。





大学を囲む、宗像の海・山・空をイメージし、水と空が一続きになって  
一様に青々としていることを表す四字熟語「水天一碧」から名付けら  
れました。

「碧」は、同窓会「遥碧会」の字のひとつでもあり、本紙を通じて、学生  
・保護者・OG・OBの皆様と大学とが一続きにつながって欲しいとの  
願いが込められています。

題字：吉田 歩さん（平成26年度 看護学部卒業生）／福岡県・柏陵高校出身

## 日本赤十字九州国際看護大学

Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing & Graduate School

発行：日本赤十字九州国際看護大学

〒811-4157 福岡県宗像市アステイ1丁目1番地

Tel.0940-35-7001 Fax.0940-35-7021

<https://www.jrckicn.ac.jp/>

### 寄付のお願い

本学では、個人・法人の方からのご寄付を募集しています。寄付  
金には、一定の税制上の優遇措置が受けられます。詳しくは、本  
学ホームページでご確認をお願いいたします。